

(様式10)



政務調査活動・先進地調査等 報告書

平成30年11月26日

三田市議会議長

厚地弘行 様

本会派は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	公明党	代表者	私岡信生 
派遣者氏名	平野菅子 	印	印
視 察 先	山形県 天童市		
調査事項 (調査目的)	ショッピングリハビリ事業について		
日 時	平成30年11月21日(水) 13時30分~16時		
視察先対応者	健康福祉部保険給付課 課長 五十嵐 孝 氏 課長補佐 後藤 栄 氏 介護支援係副主幹 瀬野 真紀子 氏 天童ディサービスセンターとなりのつるかめ 主任生活相談員 水戸 竜之 氏		
添付資料	別添		

調査日時	平成30年11月21日（）13時30分～16時
視察先	スーパーおーばん 天童市役所
調査事項	<u>ショッピングリハビリ事業について</u>
(調査結果の概要及び所見)	
別紙のとおり	

今回の視察については、高齢者の買い物を支援し介護予防につなげる画期的な事業である「ショッピングリハビリ」を10月からスタートされたことで、利用者のお声やこの事業に至った経緯等もお尋ねしたいと思った。幸いなことに、ショッピングリハビリをされているのが毎週水曜日とのことで、当日はその現場であるスーパーに伺うことができた。

13時30分過ぎには、要支援1と2の高齢者の方5名がディサービス事業者さんの車で各地から到着をされた。なかにはステッキをお持ちの方もおられたが、皆さんお元気で週一回のこの日を楽しみにしているということであった。

利用者にお話を伺うと、事前に料理の献立を考えて、その食材の買い忘れが無いように買い物リストを作って来ているという方々ばかりであった。少し緊張感を持たれながらも、慣れた動きでカートを押しながら、次々と品物を入れて行かれる様子は、要支援とは思えないほどであった。そのうちの何名かの足元には、買い物を始める前に万歩計をセットして、買い物終了時には何歩歩いたかを計測するようになっていた。この日の計測結果の平均では、1000歩以上の歩行と事業者さんからの報告があった。皆さんに「歩いて疲れませんか」と聞くと、どなたも「疲れていない」というお返事で、自分が主体的に動く、楽しい行動（ショッピング）は歩くことも苦にならない、やらされ感が無いのがこの事業の特徴でありメリットでもあると感じた。

担当課のお話では、ディサービスをスーパーで行っているという捉え方だとのこと。

また外に出かけるので、身だしなみやお化粧品にも気を遣うようになったと言われる婦人もおられ、この事業の相乗効果はなかなかのモノではないかと思った。

またこの日は、日経新聞の記者も東京から取材に来られていて、これまでから何回もテレビ等のマスコミにも紹介されてきた事業であるということも伺った。

その後、市役所に場所を移し事業内容についての説明を受けた。

天童市の人口は約6万2000人で、うち65歳以上が占める割合は29.2パーセントで県平均よりやや下回ってはいるものの、高齢化対策は喫緊の課題と位置付けられている。同市では、住み慣れた地域で市民が暮らせるよう65歳以上を対象に「介護予防・日常生活支援総合事業」を展開する中での一環として、10月から新たに「ショッピングリハビリ」を開始された。この事業は、提携する市内のスーパーへ介護事業者が高齢者を車で送迎し、買い物を兼ねた歩行運動を補助しながら、身体機能の維持・向上を図るものである。

買い物を楽しんでもらい、お金の計算などを通して認知症を防ぐ狙いもあり、このように行政と介護事業者と商業施設が一体となって実施するショッピングリハビリは全国初とのことである。

対象は市内在住の65歳以上で、介護保険の要支援1、2に認定された人と、同市の介護予防・日常生活支援総合事業に認定された人で、市内に約900人いると見られている。

現在のところ、市内9介護事業所とスーパー4店舗で毎週水曜日の午後1時45分から2時45分までの1時間で、月4回行われている。本人負担は1,420円である。また利用日時は、ディサービスの空き時間でありスーパーの客入りが少ない時間帯・曜日から設定されているということであった。

天童市が「買い物」に着目したのは、全国の自治体から国に集約する「認定支援ネットワーク」のデータから、2012年2月時点の調査結果で要支援1、2の人のほとんどが食事や着替えなど身の回りの動作を自分でできる反面、生活行為のうち買い物が一人でできない、というものであった。そこで「自立から介護へ進ませないためには、境目ともいえる『買

い物』支援が急所ではないか」という結果に至った。

また同市でのショッピングリハビリの運営主体となる、市内通所事業所で作る通所介護事業所連絡協議会の「となりのつるかめ」デイサービスの水戸さんは、「今回の新事業は、高齢者のフレイルと引きこもりを防ぐ切り札となると考える。誰もが最後まで自宅で暮らせるように支援していきたい」と語られていた。

市の当初予算としては、協議会に委託料としての 676 万円である。

三田市としてこれをどう見るかは、検証が必要であるが、事業内容としては費用対効果が見込まれる事業ではないかと考える。

また事前に提出した、質問項目については別紙にてご回答いただいているので、合わせて添付する。

3 事業のイメージ図



(1) 天童市の4つの生活圏域で分ける（北西・南西・北東・南東）。

※事業開始年度は参加事業者数、利用者数に応じた区域分けでスタートする。

現在、4つの商業施設及び9つの通所介護事業所で参加の同意を頂いている。

(2) 事務局を設置し、事業の運営・管理をおこなう。

(3) デイサービスが空く時間帯を活用して行う。

4 実施について

(1) 事前参加事業所職員研修を9月6日（木）に開催した。

(2) 担当店舗への下見、乗降口や駐車場の確認とお店側担当者との顔合わせを実施した。

(3) 利用者との個別面接を実施（担当者会議）

(4) 平成30年10月10日（水）から毎週水曜日に開始している。